

# 昔話絵本の比べ読みを活用した領域「言葉」の指導と効果 —伝統的言語文化の継承における幼小接続の観点から—

## The Teaching Method of the Childcare Contents “Language” Using Comparative Reading of Old Tale Picture Books and Its Effects —From the Perspective of Connection between Kindergarten and Elementary School in the Heritage of Traditional Language and Culture—

屋木 瑞穂  
YAGI Mizuho

キーワード：領域「言葉」、昔話絵本、比べ読み、伝統的言語文化、幼小接続

Key Words : Contents of Childcare (Language), Old Tale Picture Books, Comparative Reading,  
Traditional Language and Culture, Connection between Kindergarten and Elementary  
School

### 1. はじめに

本研究は、保育士・幼稚園教諭二種免許取得課程の「こどもと言葉Ⅰ」の授業における昔話の再話絵本の比べ読みを活用した実践方法と教育効果を検討するものである。幼児教育から小学校国語科の接続を考える上で、伝統的言語文化を育成することが重要になる。小学校の学習指導要領「国語科」では、我が国の伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育てることを旨とした「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が、平成20年の『小学校学習指導要領』に新設された。その趣旨は、現行の学習指導要領でも「我が国の言語文化に関する事項」として引き継がれ、第1学年及び第2学年では「昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと」が指導内容として挙げられている<sup>1)</sup>。このように、保育者を目指す学生にとって、領域「言葉」と小学校国語科をつなげる教材として昔話の読み聞かせの意義についての理解を深めることは重要であると考えられる。

昔話を含む「物語」の位置づけについて、『保育所保育指針』では、第2章「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の「領域『言葉』」のねらい③に、「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」と示されている<sup>2)</sup>。また、「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」のねらい③にも、「絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる」とある<sup>3)</sup>。「内容の取扱い」③には「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること」、④には「子どもが生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること」<sup>4)</sup>と示されている。さらに、『幼稚園教育要領』総則第2が示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(9)「言葉による伝え合い」には、「先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」<sup>5)</sup>とある。絵本や物語を通じて、子どもは時間的や距離的に遠い世界と出会い、物語の内容と自分の経験を結び付けたり、登場人物の心情を想像する楽しさを味わう。想像力は他者を理解し、気持ちを通わせるためにも必要な力である。架空の世界で自分と違う人生や思考、多様な感情に出会いながら、子どもの知識や想像力が広がり、新たな言

葉や表現に触れることで、「言葉に対する感覚」を豊かにし、その育ちに応じた言葉を身に付けていくことが望まれる。

昔話絵本は、長い年月を経て語り継がれてきた話をもとにつくられている。藤本は柳田国男の『口承文芸史考』の解説を手がかりに、昔話は「昔々ある処に」という「発端句」から始まり、「トサ・ゲナ・ソウナ・トイウ」などの語を付して「又聴き」であることを示し、「どんとはらい」などの地方特有の「結末句」で終わるという表現形式をもつ「伝承文芸」として定義している<sup>6)</sup>。口承で語り継がれてきた昔話の語り口や様式は、単純明快なストーリー、擬音語・擬態語、常套句、くり返しの多用など心地よい言葉の響きやリズム感があり、耳で聴くのに適した文体といえる。一方、各地域に伝わる昔話の子ども向けの再話は様々な作者が手がけており、再話者の文体や語りの姿勢によって、同じ昔話でも多様な絵本がある。原話を大切にしているものもあるが、脚色や改変も多い。本授業の教科書『保育内容「言葉」指導法』<sup>7)</sup>でも、「昔話（伝承文学）」は、「長い間受け継がれてきた評価の安定した物語が多いジャンル」だが、「伝承される地域によってストーリーや設定、細部が異なるという問題」があり、「昔話絵本の選書に当たっては、再話者がすぐれているか、どんな話型かを保育者が見極めて選んでいく必要」<sup>7)</sup>があると述べ、子どもの年齢や発達段階、言葉に対する関心や理解を踏まえて、保育者が読み聞かせ教材を選択する重要性を指摘している。

以上をふまえ、本稿では、2022年度後期に開講した「こどもと言葉Ⅰ」についての実践報告を行い、アンケートの結果や記述回答を通して授業内容の成果について検証し、昔話絵本の比べ読みを活用した授業方法の教育効果について検討することを目的とする。

## 2. 昔話の再話絵本の比べ読み

### 2-1 教材としての瀬田貞二再話『かさじぞう』<sup>8)</sup>と岩崎京子再話『かさこじぞう』<sup>9)</sup>

日本の代表的昔話の一つである「笠地蔵」は、幼児教育・小学校教育の教材として親しまれている。「笠地蔵」の昔話は、貧しい老夫婦の年越しの話である。大みそか、貧しい爺が正月を迎えるために町へ笠を売りに行く。しかし、なかなか売れず諦めて帰る途中、地蔵様が雪を被っているのに気づき、気の毒に思って笠をかぶせて帰る。爺は婆に事情を説明し、何も食わずに年越しをすることにする。夜中に米や餅などを地蔵から贈られ、老夫婦は良い正月を迎えることができたという物語である<sup>10)</sup>。幼児教育の教材として「笠地蔵」が取り上げられる理由として、山田は、四季折々の年中行事を重視する幼児教育においては、晩秋から冬へかけて、寒さがつのり年の瀬が近づくにつれて、餅つきや大晦日、正月行事の話と絡めて、『かさじぞう』の絵本の読み聞かせが行われことが多く、「幼年向け作品に必要な要素がいくつも導入されており、子どもたちの心を惹きつけている」と述べている<sup>11)</sup>。また、『新訂お話とその魅力ー作品と話し方のポイントー』では、4歳から5歳くらいの子どもの向けの「心あたたまるやさしさあふれるお話」として『かさじぞう』を推奨し、「ペープサートや人形劇、それに児童劇とさまざまな形で演じられて」いると述べている<sup>12)</sup>。

昔話「笠地蔵」の再話絵本は、数多く出版されている。本稿では、初版が1966（昭和41）年でロングセラーであり、保育者養成校向け「領域 言葉」の教科書でも推奨されている瀬田貞二再話・赤羽末吉画の『かさじぞう』<sup>8)</sup>（以下、瀬田版とする）と、小学校低学年の国語科教材『かさこじぞう』に多く採用されている岩崎京子再話の『かさこじぞう』<sup>9)</sup>（以下、岩崎版とする）を取り上げ、その教材としての取り扱い方について説明する。

先述のように瀬田版は、「領域 言葉」の教科書でも推奨されている。例えば、『子どもの姿からはじめる領域・言葉』では、「繰り返しの言葉とオノマトペのおもしろさ」という観点から、瀬田版の読み聞かせがきっかけとなってお遊戯会で劇をすることになり、「じょいやさーじょいやさー」のセリフが気に入り、「お地蔵さんになりたい」という子どもが多数出て、意欲的に取り組んだという4歳児クラスの事例が紹介されている<sup>13)</sup>。

岩崎版は、低学年の国語科教材『かさこじぞう』として、現行教科書では『新しい国語二下』（東京書籍）『みんなと学ぶ小学校国語二年下』（学校図書）『ひろがることば小学国語二

下』(教育出版)などで採用されている(令和2年版)。小学校国語科の学習指導要領(第1学年及び第2学年)の〔知識及び技能〕(3)我が国の言語文化に関する事項のAには、「昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと」とある<sup>13)</sup>。また、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』では、「読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにすることが大切」であり、「話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しなどにも気付き、親しみを感じていくことを重視する」と説明されている<sup>14)</sup>。さらに、小学校国語科の学習指導要領(第1学年及び第2学年)には、「読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする」という言語活動を例示している<sup>15)</sup>。例えば、『ひろがることば小学国語二下』(教育出版)教師用指導書解説によれば、「登場人物の様子や情景を豊かに想像しながら音読の工夫をし、グループで音読(群読)発表会を開いて、その感想文を交流し合う」<sup>16)</sup>という単元を構想している。

## 2-2 先行研究

瀬田版と岩崎版の比較分析については、すでに先行研究があり、それぞれの教材の特性について論じられている。原田は、瀬田版と詳細な比較分析して、岩崎版は「夫婦相互の思いやりやいたわり、雪にまみれた地蔵への憐憫の情などの描写が細やか」で、「老夫婦の心情や人となりが強くと意識された再話作品である」と述べている<sup>17)</sup>。

筆者が両作品を比較すると、瀬田版が全18ページ(1399字、句読点・鍵括弧含む)であるのに対し、岩崎版は全31ページ(2123字、句読点・鍵括弧含む)で2倍近く文章量が多く、また会話文が多用され、瀬田版ではカギ括弧付き会話文が10箇所であるのに対し、岩崎版は22箇所ある。例えば、町の市での笠売りの様子を描いた場面では、岩崎版には、大晦日の賑わいを伝える情景描写と対比的に、笠が売れなくて落胆するじいさまの心情描写があり、「がっかりするじゃろうのう」と家で待つばあさまへの思いやりがせりふで表現されている。一方、瀬田版には、じいさまの心情描写はなく、「じいさんの かさなんか、みむきもされなかつた。」(傍線筆者)と傍線部のように伝聞を示す語を付し、出来事を簡潔に伝えるストーリー展開を重視した昔話独特の語り口調になっている。岩崎版は、六地蔵に笠をかぶせる場面に重点を置いており、瀬田版では2場面(24行)であるのに対して、4場面(35行)割いている。岩崎版では、「こっちの じぞうさまは、ほおべたに しみを こさえて。それから、この じぞうさまは どうじゃ。はなから つららを さげて ござらっしゃる。」と「つめたい じぞうさまの、かたやら せなやらを なでました。」というように、順々に六地蔵をいたわる動作やせりふを丹念に描いて、じいさまの優しい心情を強調している。

帰宅後、売り物の笠を六地蔵にかぶせてきたと話すと、瀬田版では、「そうか、そうか。かさをもってきたって、こんやのたしには ならないもの。おじぞうさまに あげて よかったな。」とあって、「すっぽりめしを さくさく たべて ねてしまったと。」というように、おかずなしの質素なご飯を食べて年越しをする様子を「さくさく」という擬態語を用いて、耳で聞く昔話特有の簡潔な語り口で表現している。一方岩崎版では、ばあさまは「おお、それは ええことを しなすった。じぞうさまも、この ゆきじゃ さぞ つめたかろうもん。」とじいさまの思いやりのある行動に共感し、「いろりに きて あたって ください。」というように、じいさまを労わる温かい人柄がせりふを通して伝わる。さらに、餅のない年越しの侘しさを振り払うように餅つきの真似事をする場面が挿入され、じいさまが「こめのもちこ ひとうす ばったら」と囲炉裏のふちをたたいて歌うと、「あわの もちこ ひとうす ばったら」とばあさまが「あいどり」の真似をして歌い、明るく前向きに年を越そうとする老夫婦の様子が細やかな情景描写とともに描かれている。老夫婦が歌い合う場面には、岩崎版の特徴が顕著に表れているといえる。

一方、人物や情景の細やかな描写を特徴とする岩崎版を昔話教材として用いることに対する疑問も提示されている。安藤は、原話「笠地蔵」との比較検討を通して、岩崎版の「風土性のうすさと、内容の盛り沢山さ」を指摘し、結末句など民話独特の語り口調が失われ、

「単純素朴な直截さ」に欠けると批判し、昔話の語り口調を継承している瀬田版の方を評価している<sup>18)</sup>。また、山本は「民話的特徴が含まれているか」という評価規準に基づいて伝承笠地蔵の原型と比較検討し、内容がほとんど一致したものとして、瀬田版を「優れた民話絵本」として評価している<sup>19)</sup>。

瀬田版では、地蔵さまがお礼の品を届ける最後の場面に最も多く筆を費やしており、じいさまが六地蔵に笠をかぶせる場面と老夫婦が餅つきの真似事をして歌い合う場面に描写の力点があった岩崎版とは異なる。贈り物の中身や届けられる様子にも違いがある。瀬田版では、「よういさ、よういさ、よういさな」というそりひきのかけ声がリズムカルに3回くり返されて徐々に大きくなり、「よういさ、よういさ、どっこいしょ」と重い物を下ろして、「のっこのっこ」と帰っていく。「のっこのっこ」という擬態語は地蔵さまの足取りを想像させるが、贈り物の届け主については、「六にんの あみがさを かぶった ひとたち」と曖昧な表現のみで明示されず、正体は誰なのか想像の余地を残している。地蔵さまがそりを引いてくる場面は、非日常的な出来事が起こる緊張感が高まる物語のクライマックスで、再話者が様々な工夫を施し、子どもの想像力と期待感を掻き立て、心を惹くところである。岩崎版では、「じょいやさ じょいやさ」とそりを引く独特のかけ声がして、贈り物を下ろす様子が「ずっさん ずっさん」とユニークな擬態語を駆使して表現されている。老夫婦が雨戸を開けると、「かさこを かぶった じぞうさまと、てぬぐいを かぶった じぞうさまが、じょいやさ じょやさ と、からぞりを ひいて、かえっていく」とあり、届け主が明示されている。贈り物の中身は、「こめの もち、あわの もちの たわら」、「みそだる、にんじん、ごんぼや だいこんの かます、おかざりの まつ」などの正月を迎える必需品のみで、「よい おしょうがつを むかえる ことが できましたと。」と締め括られる。これに対して、瀬田版の贈り物の中身は、正月用品のみならず、「たからやら、こがねやらが、どっさり つまんで」おり、年越しが叶ったのみならず、「それから ふたりは、しあわせになっとさ。」というように、昔話特有の結末になっており、「どっとはらい」という結末句で締め括られている。岩田は、様々な絵本・紙芝居の比較検討を通して、貧しい中で仲良く暮らす老夫婦が餅つきの真似事をして歌い合う場面の挿入に注目し、「モノの豊かさで成就する因果応報譚から心の豊かさを描いた」物語へと「新たな価値」を生み出し、「モノでは買えない幸福を描いて」いる点に、岩崎版の「独自性」を見出している<sup>20)</sup>。

教材としての両再話を比較して、原田は先に触れた論考の中で、「昔話らしい簡素な語り口を味わわせることをねらいとするならば、瀬田作品の方がよりふさわしいであろうし、昔話という低学年にもなじみやすい枠組みを利用しつつ人物について深く読み込むことをねらいとするならば、あるいは、児童向け読物やその先の小説への道筋をつけていくことを意識するのならば、岩崎版の方が教材として扱いやすいだろう」と述べている<sup>21)</sup>。

### 2-3 「比べ読み」の実践の意義

船津は、「比べ読み」の意義について、複数の教材を観点をもって比較・対照することで「共通点と相違点を把握」することができ、それぞれの「作品の特徴をとらえる」ことができるという。また、「一つの作品を読んでただけで気付かなかったことを発見したり、二つを結び付けて考えたりすることができる」と述べている<sup>22)</sup>。川上も、「表面上の特徴に気付く」だけでなく、「たくさんの気付きの中から、焦点化して比べる」ことで「深い意味合いにまで気付きやすくなる」と指摘している<sup>23)</sup>。このように、「比べ読み」により、共通点と相違点を把握し、分析的に批評することで読みが深まり、その特徴を捉えやすくなると考えられる。

そこで、昔話絵本の比べ読みを通して、昔話特有のリズムや表現の魅力（語り始めや語り納めの口調、擬音語や擬態語、繰り返しの表現、方言等）に気付き、「口承文芸」としての昔話の特徴をとらえることができると考えた。昔話は同じ題名でも、地域の特徴や風土によりストーリー展開や表現が異なる。現代において読むことができるのは、音声言語であった昔話を文字言語として再現した「再話」であるが、作者によりストーリー展開や表現が異なる場合が多い。「昔話」を教材として保育に取り入れる場合は、子どもの発達段階に応じて、

どの「再話」を扱うのか吟味し、子どもに親しみやすい「再話」の効果的な活用が必要である。先に述べたように、瀬田版と岩崎版は同じ昔話の再話ではあるが、ストーリー展開はほぼ同じものの、描写の力点や表現の方法等に違いがある。本稿では、両作品を対象として、比較分析を通して表現の特徴を明らかにし、昔話の意義や子どもの発達年齢に応じた絵本の選択について考察を深めることを目的とした授業実践の方法と成果について検討したい。

### 3. 実践内容

#### 3-1 第1～7回目授業の概要と本実践の位置づけ

「こどもと言葉Ⅰ」は、地域こども学科1回生対象に2022年度後期に開講され、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための「領域『言葉』」に関する必修科目である。学習成果・到達目標としては、次の4点を挙げている。

- ①領域「言葉」のねらいと内容について理解し、説明できる。
- ②こどもの言葉の発達過程をふまえた言葉かけや援助のあり方を理解し、説明できる。
- ③児童文化財の意義や活用方法について理解し、こどもの言葉の感覚を豊かにする指導案の作成と模擬保育ができる。
- ④こどもを取り巻く言語環境の変化が言葉の発達にどのような影響を与えているのか、こどもの言葉に関わる今日的な課題について理解し、説明できる。

本授業は演習科目の位置づけで15回実施した。具体的には、第1回目に授業ガイダンスを実施した後、第2回には「領域『言葉』」のねらいと内容、及び「領域『言葉』」と小学校教科「国語」との接続について概説した。第3回～第6回には、「子どもの発達と言葉」について、「前言語期」「発語期」「幼児期」に分けて概説し、各回の事後学修として授業で学んだ基礎知識をふまえて発達段階に応じた絵本を選び、次時にグループごとに選んだ理由とともに紹介しあい、聞き取りメモを取り絵本リストを作成するという演習を取り入れた。第7回には、「領域『言葉』」に関する児童文化財の概要について概説し、絵本、紙芝居、ストーリーテリング、言葉遊びなどのジャンルの特徴や意義について考察した。

以上の授業内容から習得した知識をふまえて、本実践(第8～10回)では、昔話絵本の読み比べを通して「伝統的な言語文化」に親しみ、児童文化財としての昔話の特徴と意義について理解を深め、幼児期の発達段階と言葉の育ちに応じた教材について考察を深めることを目的として授業を行った。11～14回は、指導案の作成や模擬保育を行い、15回目をまとめとした。本稿では、特に昔話絵本の比べ読みを活用した授業方法の教育効果に焦点をあてて報告する。

また、教育効果を明確にするために、第8回授業の初めに、昔話に対する興味・関心、知識、昔話の「再話」の意味、昔話の意義についての理解を調査する事前アンケートをGoogle Formsを使って実施した。事前・事後アンケートの回答、課題レポートや発表資料の記述内容については、授業改善と研究目的のみに使用し、個人情報について開示しないことを説明した上で、「授業の目的、方法等について理解し、回答を学術報告に使用することに同意しますか」と事前アンケートで質問し、受講者44名の全員の承諾を得た。

#### 3-2 事前アンケートの方法

【時期】2022年11月7日の授業内にアンケート調査を実施

【対象者】必修科目「こどもと言葉Ⅰ」を受講する1回生44名

【質問内容】

- ①昔話に興味・関心がありますか  
・ある ・ない ・どちらともいえない
- ②どのような昔話を知っていますか。知っている昔話の題名を書いてください(複数回答可)
- ③どのような機会、媒体で昔話を知りましたか(複数回答可)  
・自分で読んだ ・アニメで見た ・口承、語りを通して聞いた ・絵本の読み聞かせで聞いた ・動画で見た
- ④好きな昔話を1つ選び、ストーリーを簡潔に書いてください

- ⑤ 昔話の「再話」とはどのような意味ですか
- ⑥ 昔話を読むことにはどのような意義があると思いますか、自分の考えを書いてください

3-3 事前アンケートの結果

(1) 昔話に対する興味・関心度

質問①「昔話に興味・関心がありますか」については、図1に示したとおり、興味・関心があると回答した学生は、全体の52.3% (23名)であった。「どちらともいえない」と答えたのは40.9% (18名)、「ない」は6.8% (3名)であった。

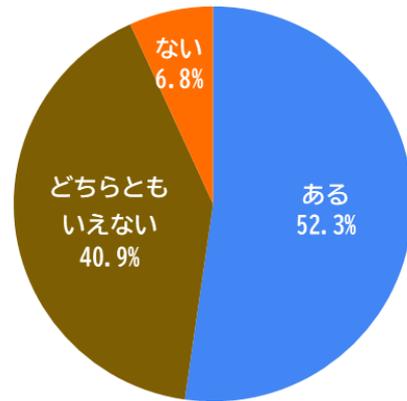


図1 昔話に興味・関心がありますか

(2) 昔話の認知度

質問②「どのような昔話を知っていますか。知っている昔話の題名を書いてください(複数回答可)」の回答は、表1のとおりである。外国の昔話では、「おおきなかぶ」「てぶくろ」「三びきのやぎのがらがらどん」「ジャックと豆の木」の回答があり、他にグリム童話の「白雪姫」「シンデレラ」「赤ずきん」、アンデルセン創作童話の「人魚姫」「赤い靴」「マッチ売りの少女」の回答もあった。日本の童話「ごんぎつね」「泣いた赤鬼」、落語の「じゅげむ」を昔話と認識している学生がおり、伝承文芸としての昔話の定義が曖昧であることがわかった。

表1 昔話の認知度 (複数回答可)

桃太郎	31名
浦島太郎	21名
鶴の恩返し	19名
さるかに合戦	15名
かぐや姫	13名
かちかち山	10名
おむすびころりん	9名
花咲かじいさん	8名
金太郎	8名
一寸法師	7名
かさじぞう	6名
一休さん	3名
こぶ取り爺さん	2名
三匹のこぶた	2名
●日本の話 八つ化け頭巾、わらしべ長者、瓜子姫、 ぶんぶく茶釜、舌切りすずめ、力太郎、 耳なし芳一、三枚のおふだ、 ねずみの嫁入り ごんぎつね、泣いた赤鬼、じゅげむ	各1名
●外国の話 おおきなかぶ、てぶくろ、 三びきのやぎのがらがらどん、 ジャックと豆の木、 白雪姫、シンデレラ、赤ずきん、 人魚姫、マッチ売りの少女、赤い靴	

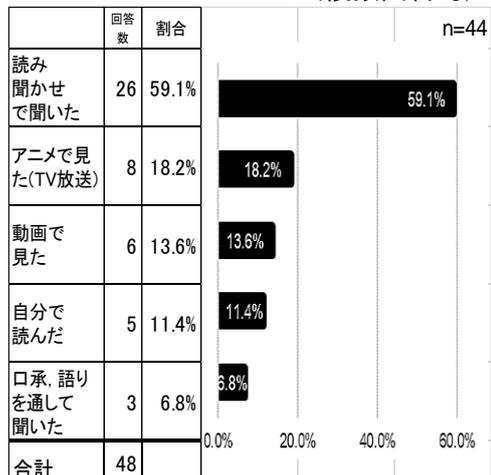
(3) 昔話をどのように享受したか

質問③「どのような機会、媒体で昔話を知りましたか」の回答数と割合は図2のとおりである。「読み聞かせで聞いた」と答えた学生が59.1% (26名)と最も多く、家庭や幼稚園・保育園などで読み聞かせを受けたか否かが認知度に深く影響していることがわかる。「アニメで見た(テレビ放送)」と答えたのは18.2% (8名)、「動画で見た」と答えたのは13.6% (6名)、「自分で読んだ」のは11.4% (5名)である。昔話を「口承、語りを通して聞いた」という学生は6.8% (3名)にとどまる。

図2 昔話を知った機会・媒体

(複数回答可)

現代の学生は、絵本やアニメ、動画などの視覚的なメディアによって昔話を知り、昔話の認知度を尋ねた質問②について創作童話を挙げているように、それが口承で語り継がれた昔話なのかどうかを意識せずに受容することも多いとみられる。



(4) 好まれる昔話の傾向

質問④「好きな昔話を1つ選び、ストーリーを簡潔に書いてください」の回答は表2が示すとおり、「桃太郎」と答えた学生が45% (20名)で、半数近かった。次いで、「おむすびころりん」「うさぎとかめ」「鶴の恩返し」「かぐやひめ」など、幼児向けに絵本化されることが多い話が

挙がった。その他は「てぶくろ」「シンデレラ」「人魚姫」などの外国の話もみられ、「特になし」と答えた学生は2名いた。

大まかなあらすじを答えた学生は40名、「桃太郎」や「さるかに合戦」「おむすびころりん」「かちかち山」などは、他の話に比べて内容を詳しく覚えている学生がいたが、話の内容を明確に覚えている学生は少なく、題名のみを答えた学生が2名いた。

表2 好きな昔話

桃太郎	20名
おむすびころりん	4名
うさぎとかめ	3名
鶴の恩返し	3名
かぐやひめ	2名
かちかち山, さるかに合戦, 花咲かじいさん, 浦島太郎, 三枚のおふだ, 一寸法師, 瓜子姫 (外国の話)てぶくろ, シンデレラ, 人魚姫	各1名
特になし	2名

## (5) 昔話の「再話」の意味

質問⑤「昔話の「再話」とはどのような意味ですか」の回答は、表3の通りである。類似の内容の回答は筆者がまとめて集計した。「わかりません」と答えた学生が38.6% (17名) で、最も多かった。それ以外には、「物語としてわかりやすく書き直したもの」「現代風に時代に合わせて作り直すこと」「昔話を作家力で話を膨らませていくこと」など大体の意味を捉えた学生が50.0% (22名) いたが、中には「まとまってない内容を物語にまとめたもの」「ちょっとストーリーが違う話」「童話」などの回答もみられた。

表3「再話」とはどのような意味ですか

わかりません	17名
物語としてわかりやすく書き直したもの	16名
現代風に時代に合わせて作り直すこと	4名
昔話を作家力で話を膨らませていくこと	2名
もう1回再構築すること	1名
まとまってない内容を物語にまとめたもの	1名
ちょっとストーリーが違う話	1名
伝説などを昔話で再現すること	1名
童話	1名

## (6) 昔話の意義

質問⑥「昔話を読むことにはどのような意義があると思いますか、自分の考えを書いてください」と昔話の意義を尋ねた回答は、以下のとおりである。「昔の日本人がなにを大事にしていたのか、昔の考え方(知恵や教え)などがわかりやすく学ぶことができる」「日本の昔からの伝承を受け継ぐ」「昔の文化や生活などを知ることができる」「昔の言葉や表現に触れることで、知識になる」「昔の人が受け継いでほしいことを物語として残していると思った」など、伝統的文化の継承の視点からの記述が多かった。また、「善悪の違いがわかる」「教訓が学べる」「良心や道徳心など、人としてどう生きなければならないのかなどが学ぶことができる」など昔話の道徳や教訓、「子どもの語彙の増大につながる」「非日常を通して想像力を豊かに多様な考えを育てる」「感情豊かになる」など、言語獲得や想像力の向上に意義を見出している。上記以外には、「日本人として共通なものがあることで、祖父母との交流が自然と出来る」というように、世代間交流という意義を挙げるものもあった。

以上のように、昔の暮らしや文化、道徳や教訓を学び、想像力を伸ばし感情を豊かにすることができるという点に昔話の意義があると捉えていることがわかった。

## 3-4 本授業(第8~10回)の実践方法

## (1) 昔話絵本の教材選択と比べ読みの観点

先に述べたように、瀬田版と岩崎版は、幼児教育・小学校教育においてともに教材として活用されている。そこで、第3回から第6回までの授業で学んだ子どもの言葉の発達過程をふまえた上で、4・5歳児に読み聞かせをする場合、どちらの昔話絵本をより適切な教材として選択するかという観点を設定した。何のために比べ読みをするのかという目的と観点を明確にすることで、意欲が高まり、主体的な思考を促すと考えた。

第8回授業では、瀬田版と岩崎版の両作品を比較し、昔話特有の語りや表現の魅力(擬音語・擬態語のリズミカルな響き、繰り返しの表現、方言等)、登場人物や場面の様子の描き方などの違いに注目してそれぞれの特徴について考察した。その際、本授業では言語表現のみに焦点をあて<sup>注1)</sup>、比較分析しやすいように、以下の5場面に分けて比較対照表をGoogle Classroomにて配信した。

- 第1場面 貧しい老夫婦の暮らしぶり
- 第2場面 町での笠売りの様子
- 第3場面 帰宅途中、雪をかぶった地藏さまに笠をかぶせる
- 第4場面 帰宅後の老夫婦の様子
- 第5場面 老夫婦に地藏さまから贈り物が届けられる

Google Classroom で個別に課題を配信し、両作品の場面ごとの違いについて考察し、それぞれの表現上の特徴を把握した上で、どちらの再話絵本が4・5歳児を対象とした読み聞かせに適しているかについて、自分の考えをその理由・根拠とともに記述して提出させた。

(2) 学習形態の工夫一個の比べ読みからグループ活動へ

第9回授業では、個々の気づきを他者と共有し、考えを広げ深めるグループ活動を取り入れた。第1～第8グループに分け、各グループのリーダー（進行役）を決めた。協働的な学びの場面には、対面での話し合いだけでなく、Google Classroom を活用した活動を計画した。両作品の違いや特徴についてグループで討議し、グループ毎に配布した課題の「共同編集」機能を活用してプレゼンテーションの資料を作成する。プレゼンテーションの準備において、グループのメンバーがそれぞれの担当項目の入力を同時並行で行うことで、より効率的に資料を作成することができる。また、他者の記載を閲覧することができるため、表現方法についての気づきを得る機会にもつながると考えた。

「共同編集」の機能は、異なる空間で、異なる時間に書き込む活動においても有効であり、個々の空き時間に書き込むことも可能になると考えられる。プレゼンテーションのための発表資料の項目は、以下のとおりである。(1) 両作品の違いと特徴 (2) 4～5歳児の発達段階を踏まえた再話絵本『かさこじぞう』の選択（ことば表現に焦点を当てる）(3) 根拠と理由 (4) 昔話絵本の比較を通して学んだこと (5) 今後の課題と展望。

(3) 言語活動の工夫グループ討論から全体発表へ

第10回授業では、共同編集した発表資料をスクリーンに提示し、1～8グループ毎にプレゼンテーションを行った。各グループが比較検討を通して4～5歳児対象の読み聞かせに選んだ再話絵本と理由・根拠についての発表内容は、表4のとおりである。

第1～8グループすべてが、読み聞かせの教材として岩崎版を選択した。その理由としては、各グループの傍線部の記述が示すとおり、「4、5歳児にはある程度の集中力、語彙力がついて」、「相手の立場に立って気持ちを考えることができるようになってくる」ため、文章量が多いが心情や情景描写が詳しく、会話文を多用して老夫婦の「心優しい人柄、人を思いやる気持ちが具体的に表現されている」岩崎版の方が、「子どもたちが想像しやすく、楽しい気持ちになる」と考えている。4～5歳児の発達状況について、第5～6回授業で学んだ幼児期の発達に関する知識と関連付けて捉えていることが見て取れる。また、「会話が多いことによって、言葉の増大に繋がる」というように、言葉の発達と関連付けた記述もある。5グループは、表4に示した理由と共に岩崎版が子どもの心を惹きつける根拠として、老夫婦が餅つきの真似して歌い合う場面に着目し、「寂しい年越しになったが、そんな時こそ明るく過ごそうとするおじいさんとおばあさんから、心豊かに過ごすことで楽しい日々を送れることが伝わります。これは見立てや、ごっこ遊びを経験してきた4、5歳にとって心惹かれるシーンであると考えました」と述べている。さらに、「困難な時に思いの通じる人がいるだけで心安らぐということなどを少しでも感じてほしいという願いをもってこの物語を選びたい」というように、登場人物の心情や関係性について考察を深めている。

さらに、1・3・5・6グループは、岩崎版のよさとして独特の言葉の響きやリズムに着目し、「じょいやさ」や「ずっさん」などの擬音語・擬態語を根拠となる叙述として示している。

その一方、瀬田版の特徴については、表4の2・6グループにみられるように、「全体的に方言の癖や言い回しの固さが目立ち、子どもには少し難しい」、「読みにくい部分が

表4 再話絵本の選択と理由・根拠（本文中で引用した箇所は傍線）

グループ・人数	選択した再話絵本	理由
1 (6名)	岩崎版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4, 5 歳児にはある程度の集中力、語彙力がついてきたため子ども達にわかりやすい表現をされている方が子ども達が絵本に集中できると思った。</li> <li>・登場人物の言葉が多く、心情や情景をイメージしやすいと思ったから。</li> <li>・説明だけの文章より、会話で表現された文章の方が、子どもが絵本の世界を想像しやすい。</li> </ul>
2 (6名)	岩崎版	『かさじぞう』は全体的に方言の癖や言い回しの固さが目立ち、子どもには少し難しいのではないかと感じた。一方『かさじぞう』は会話文が多く分かりやすい文章表現であり、場面ごとの描写も細かいので、登場人物の気持ちを思いやったり、ストーリーを理解して言葉を楽しむためには『かさじぞう』の方が適していると考えた。
3 (6名)	岩崎版	4・5 歳の子どもたちは、自分の意思や欲求を相手にわかりやすく伝えることができるようになるため、会話文が中心の「かさじぞう」が良いと思いました。
4 (6名)	岩崎版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5 歳児の発達段階で、「他者の気持ちの理解」があることから、場面ごとに心情が描かれていたり、二人の掛け合いが多いため。</li> <li>・子どもがわかりやすい言葉が使われていた。</li> </ul>
5 (5名)	岩崎版	4 歳頃には大切な友達ができ、また 5 歳頃には子ども同士の関わりが強くなって、集団行動ができるようになります。4, 5 歳の発達段階として他人を思いやることができるようになってくる時期だと考えました。だからこそ、おじいさんとおばあさんの言葉でのやり取りや、お互いを思いやる気持ちがよく分かる「かさじぞう」を選びました。また台詞が多いことで、普段の絵本との差も少なく理解もしやすいと考えます。
6 (6名)	岩崎版	瀬田さんの方は読みにくい部分が多く、幼児にはわからない難しい言葉が出てきて、保育者も読むのが少し難しいかなと感じました。岩崎さんの方は読みやすくストーリーもしっかりついていて、幼児がきいてもわかりやすいと思い、岩崎さんの方が良いと思った。
7 (4名)	岩崎版	4 歳 5 歳頃になると、相手の立場に立って気持ちを考えることができるようになってくるため、物語の内容が細かく描かれている会話の中で、相手の感情が汲み取りやすい岩崎版の方が子どもの関心を寄せやすく読み聞かせに適していると考えます。また、 <u>会話が多いことによって、言葉の増大に繋がる</u> と考えます。
8 (4名)	岩崎版	『かさじぞう』の方が言葉の表現が具体的に詳しく記述されており、おじいさんとおばあさんの心優しい人柄、人を思いやる気持ちが具体的に表現されていると感じました。その他にも、場面場面の表現が一つ一つ具体的に表現されていると感じ、聞いているだけで子どもたちが想像しやすく、楽しい気持ちになると考えました。子どもは会話や関わりを多くするほうが良いと思ったので会話が多いかさじぞうを選びました。そして言葉がかさじぞうより、かさじぞうのほうが簡単だと思ったからです。

多く、幼児にはわからない難しい言葉が出てきて、保育者も読むのが少し難しい」という記述がみられた。例えば、1・3 グループは、雪に埋もれた地蔵に会ったじいさまの心情を表す「むごい」という言葉を「難しい」と指摘している。図2の事前アンケート結果が示すとおり、大半の受講生は絵本やアニメ、動画などの視覚的なメディアによって昔話を享受しており、口承で語り継がれた昔話特有の簡素な語り口や言い回し、方言になじみが薄く、「難しい」と感じるものが多いことが明らかになった。先に触れた先行研究では、昔話特有の語り口調を継承している瀬田版を評価し、岩崎版を昔話教材として用いることに対する批判も提示されていたが、学生たちは、会話を多用し細やかな描写を特徴とする岩崎版を、人物や場面の様子を想像し感情移入しやすいという理由で、4～5 歳児を対象とした読み聞かせの教材として選択している。

しかし、その一方で比べ読みを通して両再話の違いと特徴を検討することで、登場人物の詳しい心情や情景描写が見られず、登場人物の行動を簡潔に語るという瀬田版の昔話特有の語り口に気づき、4 グループの発表資料の中には「岩崎版は言葉が多く、話が長いので対象年齢は小学生だと思った」という意見もあった。また、瀬田版の特徴として地蔵がそりを引く掛け声の「よういさ よういさ」というくり返し言葉に着目して、

「リズムカルで子どもが楽しめる」という意見もみられ、聞き手を惹きつけるくり返しのリズムなど、口承文芸として耳で味わう昔話の特徴に気づくことができたと考えられる。

#### 4. 振り返りアンケートの結果と考察

##### 4-1 アンケートの概要

第10回授業において、活動終了後に「振り返りアンケート」調査を Google Forms を使って実施した。先に3-1で述べたとおり、アンケートの結果は、授業改善と研究目的のみに使用し、個人情報について開示しないことを説明し、回答を学術報告に使用することについて受講者全員の同意を得ている。

【実施日】2022年11月21日

【回答者】「こどもと言葉I」受講者の内42名

【質問内容】

- ①昔話に関心をもち、意欲的に取り組みましたか
- ②児童文化財としての昔話の意義に対する理解を深めることができましたか
- ③昔話の読み聞かせにはどのような意義があると思いますか。自分の考えを書いてください（記述式回答）
- ④子どもの発達段階をふまえた昔話絵本の選択について考えを深めることができましたか
- ⑤昔話絵本の比較を通して学んだことについて書いてください（記述式回答）
- ⑥昔話を読み聞かせする時に絵本選びで留意することは何ですか（記述式回答）
- ⑦グループ討議、発表を通じて、昔話絵本に対する自分の見方や考え方が深まりましたか
- ⑧昔話について、これからもっと学びたいことは何ですか（記述式回答）
- ⑨今後、実習や保育の中でどのように昔話を取り入れたいですか（記述式回答）
- ⑩第8～10回授業についての疑問や感想（自由記述）

##### 4-2 アンケートの結果と考察

上記のアンケート項目の中で、③⑤⑥⑧⑨⑩の記述式回答については、付表に示したとおりである。以下、アンケート結果について考察したい。

###### (1) 昔話への興味・関心について

質問①「昔話に関心をもち、意欲的に取り組みましたか」の回答は、図3が示すように、「そう思う」と答えたのが71.4%（30名）、「やや思う」が26.2%（11名）、「あまり思わない」が2.4%（1名）、「全く思わない」は0.0%であった。97.6%（42名中41名）の学生が「そう思う」「やや思う」と回答しており、図1の事前アンケートの結果と比べて、部分の学生が昔話への関心を深め、意欲的に取り組めたことがわかる。付表の回答

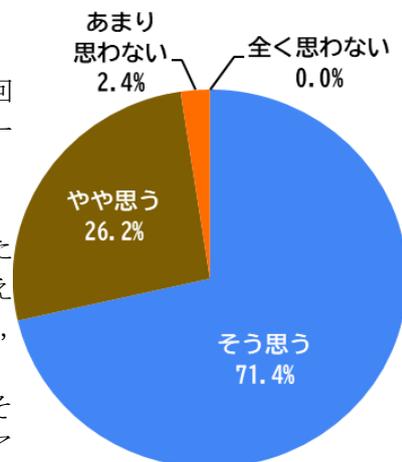


図3 意欲的に取り組めたか

記述が示すとおり、設問⑧「昔話について、これからもっと学びたいことは何ですか」についての回答の中には、「クラスの人達に『自分の小さい頃に聞いた昔話』集計を取ってみたいと思いました。年齢が違ったり、育つ地域・場所・環境が違うのでその違いを共有してみるのも楽しいのかなと思いました」「昔話がどの地方で生まれたかなど歴史、話の内容、種類について」「昔の言葉や表現を知って子どもたちに説明できるような知識をつけていきたい」「いろんな昔話を読んで昔の文化や生活習慣などを学びたい」などの記述がみられ、昔話特有の語り口調や現代と異なる文化や生活習慣など、地域によって異なる昔話へと興味・関心を広げていることが見て取れる。

###### (2) 昔話の読み聞かせの意義・子どもの発達段階に応じた絵本選択について

質問②「児童文化財としての昔話の意義に対する理解を深めることができましたか」については、図4が示すように、「そう思う」と答えたのが66.7%（28名）、「ややそう思

う」が31.0% (13名), 「あまりそう思わない」が2.4% (1名), 「全く思わない」は0.0%であった。「そう思う」「ややそう思う」と答えた学生は, 97.7% (42名中41名) を占め, 大部分の学生が「児童文化財としての昔話の意義に対する理解を深めることができた」と感じていることが見て取れる。

昔話の読み聞かせの意義について尋ねた質問③に対する回答記述を, 付表に示すとおり, 「I. 伝統文化の継承 II. 昔の文化や習慣を知る, 非日常的な世界に遊ぶ III. 教訓, 道徳や人間の生き方を学ぶ IV. 言語の獲得, 想像力や感受性を育む」いうカテゴリーに分類した。主な例を挙げると, Iに関しては, 「昔の日本の暮らしや風景を口で伝えていくことで, 言葉と絵を組み合わせるだけでイメージすると同時に興味も出てきて, そのまま日本の伝承にも繋がるし, 今と昔の違いを知る

だけで物語に新鮮さを感じるから」「むかしの人たちが現代に伝えたいことを絵本にして記していると思うので, 読むことによって伝承されていく」「日本の国として, また地域としての文化や言葉使いなどの継承」「昔から受け継がれている児童文化財に簡単に触れることができる, その後次の世代に受け継いでいく担い手になるための初歩的一步を踏み出すことができる」などの記述が見られる。IIに関しては, 「国や地域の文化の違いだけでなく, 昔の文化や暮らしに触れそれを想像する」「昔のことを知って理解したり, 絵本を通して昔から受け継がれている言葉や環境に興味を持つ」「過去を知ることができる。現実とは少し違うファンタジーの世界に触れることができる」などの記述がある。また, IIIに関しては, 以下の通りである。「『かきこじぞう』では暮らしは貧しいが, 登場人物の心はあったかく感じられました。なので昔話で昔から受け継がれている考え方や道徳を学ぶことができ, あったかい心も持つ人物になることができるのではないかと思います」「悪い行いや良い行いをすると必ず自分に返ってくるという物語が多いため, 道徳的な観点で成長していけるのではないかと考えました」「人への思いやりなどが見られるので, 良心や道徳心を育てている」などの記述がみられた。さらにIVに関しては, 以下の通りである。「昔ながらの言葉使い『どっとはらい』などや方言が使われていたり, 昔の道具などがあり, 現代にはないものと触れ合うことで豊かな感性, 想像力を育てる」「普段の生活の中では出会うことの出来ない背景や物, 生活, 登場人物に触れ, それらに対して想像する楽しみ, わくわくした高揚感等を体験することができる意義のあるものである。登場人物の心情を想像し一喜一憂したり, 登場人物と一緒に考えて, 思考力を育むこともできる」「現代とは違った昔の物語を読むことで, 子どもの想像力が豊かになる」「昔話からその内容と自分の経験と結び付けたり, 想像を巡らせたりする」「登場人物の心情を読み取り人の気持ちを想像する」「想像力が育まれたり昔話ならではの言葉表現が楽しめる」「昔の文化や方言, 言葉に触れ言葉を使うことを楽しんだり, 昔話ならではの思いやりなどを感じ取ってほしい」などの回答があった。

質問④「子どもの発達段階をふまえた昔話絵本の選択について考えを深めることができましたか」に関する回答は, 図5に示すように, 「そう思う」と答えたのが76.2% (32名), 「ややそう思う」が23.8% (10名) であり, 「あまり思わない」「思わない」は0.0%であっ

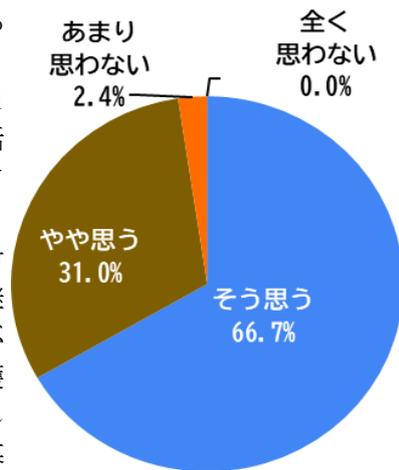


図4 昔話の意義に対する理解の深化

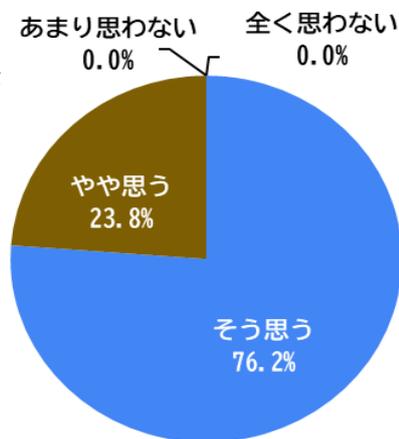


図5 発達に合う絵本選択に対する思考の深まり

た。受講生全員が、子どもの発達段階に応じた昔話絵本の選択について考えを深めることができたと感じている。

また、昔話絵本を選ぶ際の留意点について尋ねた設問⑥の回答は、付表に示したように、以下の通りである。「子どもの発達に合っているか、言葉の意味や言い回しについて保育者自身が理解できるか」「子どもの発達に合わせた昔話・季節や行事を考慮し、子どもが好きな繰り返し言葉が使われているものを選ぶこと」「同じタイトルだからどれも同じだろうと思って表紙の絵だけで選ぶのではなく、しっかりと中身を見たうえでより子どもに適していると感じた方を選ぶこと」「本の表紙だけを見て判断するのではなく、きちんと本の内容も確認して本を選ぶようにすること」「表紙だけで判断するのではなくて、中身をしっかりと見て、内容や言葉遣い、本の長さなどを見てから決めること」「同じ物語でも書く人によって、内容が全然違うので自分の考えるねらいにあった絵本を選ぶことが大切だと考えた」「同じ題名でも、今回学んだように内容や言葉遣い、伝えたいことがまったく違う場合があるので、保育者が絵本の絵や題名だけで同じだと思ひ込まず、事前にしっかりと読んで選択することが大事だと思いました」などの記述がみられた。

先に触れた表3の事前アンケート結果では、昔話の「再話」の意味について半数近くの学生が知らないと答えたが、昔話絵本の比べ読みを通して内容や表現の違いに気づき、様々な再話を比較し内容を吟味して、子どもの発達やねらいに応じた昔話絵本を選択しようとする意欲の高まりがみられた。

### (3) 比べ読み・グループ活動による協働的な学びの効果

「昔話絵本の比較を通して学んだこと」について尋ねた質問⑤の回答は、付表に示したように以下のとおりである。「再話する人によって文章量や登場人物の会話、背景の描写の細かさの違いがあり、その違いから登場人物に抱く印象が少し違うものになることが分かった」「同じ昔ばなしの内容でも少し違いがあったり、気持ちの表現の仕方や話し方が全然違うことがわかりました。比較する前までは、絵本の絵や色など見やすさなどで選んでいたけど、絵本の絵だけではなく内容もしっかり理解しないといけないと学びました」「再話者の違いによってそれぞれ良い点があり、1つの物語でも様々な再話者の絵本を読んで、その絵本の特徴を読み取り、対象年齢や育まれる姿などを踏まえた上で保育に活用していくことでより良い教材になること」「昔話の絵本の比較では、同じ絵本だとしても言葉の使い回しや、内容が違うことがわかりました。その中でも、内容の詳しさが全く違っており、驚きました。また、情景の表現の仕方が全く違う部分もあることがわかりました」「昔話は決まった作者が存在しないため、再話者の存在が重要だということ、一冊だけでなく何冊も比較し、子どもに合った絵本を選ぶ必要があるということ」「今回の昔話絵本の比較を通して、同じ物語の絵本でも、言葉遣い、表現の違いによって想像できる情景や、絵本が伝えたいメッセージが異なることを学びました。また子どもの年齢や発達や保育者のねらいに合わせて、絵本を選ぶことが重要だと学びました」「子どもが絵本に興味を持ちやすくするためにリズムカルな言葉がでてくる昔話を選ぶようにする」「同じ題名でも、今回学んだように内容や言葉遣い、伝えたいことがまったく違う場合があるので、保育者が絵本の絵や題名だけで同じだと思ひ込まず、事前にしっかりと読んで選択することが大事だと思いました」などの記述が見られた。昔話絵本の比べ読みを通して再話の違いや特徴に気づき、子どもの発達年齢や保育のねらいに応じた教材選択について考察を深めていることが見て取れる。

また、グループ活動による昔話絵本の比較検討・発表を取り入れたことの効果を調査した質問⑦「グループ討議、発表を通じて、昔話絵本に対する自分の見方や考え方が深まりましたか」の回答は、図6に示すように、「そう思う」が76.2% (32名)、「ややそう思う」が23.8% (10名)、「あまり思わない」「全く思わない」は0.0%であった。付表のとおり事後アンケートの質問⑩の自由記述では、「グループごとの考えや思いを聞いたことで、自分では考えなかったことをたくさん知ることができました」「班ごとで

色々な視点があったのでそれぞれの班の発表を聞くのがとても新鮮でなるほどなと思うことがたくさんありました」「グループ発表のまとめは、まとめきり大変達成感を感じることが出来ました」「グループ学習で学んでいくのでわからないことや、つまづいたことが出てきても、グループの人が助けてくれたりするので一人で考えるのではなくみんなの知識や考えでまとめていくのが楽しかった」などの回答がみられた。以上のアンケート結果から、学生全員が、グループ活動による協働的な学び、プレゼンテーションを通して、個々の見方・考え方が深まったと感じていることが明らかになった。

(4) 昔話について学びたいこと

質問⑧「昔話について、これからもっと学びたいことは何ですか」に関する回答は、付表に示したように、以下のとおりである。「他の作品は再話によって何がどう良くなっているのか昔ながらの表現をどのように表現しているのかを学びたい」「もっと多くの昔話を読み比べて、年齢にあった言葉表現を選べるように学びたい」「近年の昔話は表現が和らぎ、大きくストーリーが変わっているものもあるらしいので、同じタイトルの絵本を作られた年代別で比較したい」「多くの昔話があるので本とアニメとの比較をしていきたい」「他の昔話での再話者による表現の違いについて学習していきたい」「昔言葉がわからないから昔言葉について学んだらもっと理解できるのではと思った」「様々な再話者の絵本を読み、特徴を理解して、教材研究をして保育の中で実践できるように自分の力にしていきたい。その中で、昔特有の言葉遣いには特に注目して、意味などを知っていき、できるだけ子どもが触れられように自分の中に吸収出来るようにしたい」「同じ話でも比較して、読み比べをして発達に合う絵本を選ぶことについてこれからも学びたい」など、他の昔話に関心を広げて昔話特有の表現に親しみ、再話の違いや特徴に対する理解を深め、教材研究をして発達段階に合う絵本を選び、保育の中に取り入れていきたいという回答が多く見られた。

(5) 保育における昔話の活用について

今後の保育における昔話の活用について尋ねた質問⑨については、付表に示したとおり、以下の回答を得た。「発達に合わせた昔話の再話者を選んで絵本での読み聞かせをしたり、いくつもの再話者の絵本を読んで自分の中でねらいに合わせて教材研究をしっかりとした上で、素話やパペット、ペープサートなどで話していくなどして取り入れたい」「保育の中で時間をかけて取り組みたいテーマになりうると考えました。かさじぞうであれば、子どもたちが興味をひかれるような、雪の遊び(紙吹雪)、じぞうを描く、つくってみる、劇をしてみるなどです」「昔話のペープサートなどを作って子どもの昔話に対する興味を深めて昔話のことを楽しめるように工夫したい」「紙芝居や人形劇・発表会やごっこ遊びなど、リズムカルな言葉やその言葉を使う楽しさを感じてほしい」など、様々な児童文化財の活用して、子どもたちが昔話に触れる楽しさを実感し、興味や親しみをもつように工夫したいと考えていることが見て取れる。また、「保育者として子どもたちが昔話を楽しめるように話したいなと思いました」というように、口承文芸としての昔話の特徴をふまえ、ストーリーテリングを取り入れたいという回答もあった。

その他に、「沢山の物語を知ってほしいと思うので、すこしマイナーな昔話の絵本を取り入れたり、言葉についても触れてほしいので、昔の言葉で書いてある絵本を選ぶなどして取り入れていきたい」「昔話絵本に親しむ月間を作り、毎週昔話の読み聞かせを行い、子どもの昔話に対する興味を引き出せるようにしていきたい」というように、積

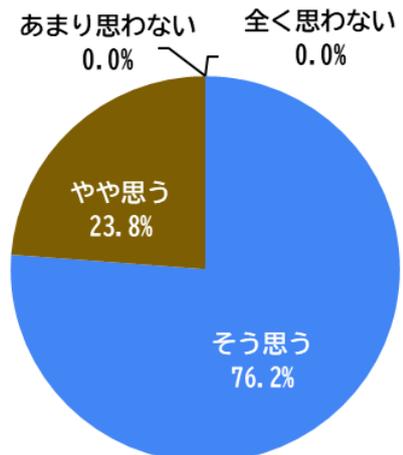


図6 協働学修による  
思考の深まり

極的に保育に取り入れ、昔話特有の言葉に触れる機会を増やしたいという意欲が感じられる。また、「昔の遊びを行う際の繋がりとして祖父母と関わる時期などのイベント前」や、「昔遊びでコマなどをするとき導入で絵本を読む」など、伝承遊びと関連付けた活用の仕方や、「子どもに伝えたい考え方などがあるときに昔話を積極的に選んで読み聞かせで取り入れたい」「人を思いやる大切さを子どもたち自身が読み取れるようになるためにも、昔話を取り入れた保育を行いたい」というように、人間の生き方を学ぶという昔話の意義をふまえた意見もみられた。

## 5. 本授業の成果と課題

本研究では、2022年度後期「こどもと言葉Ⅰ」の授業における授業内容についての実践報告を行い、アンケート結果を通して授業内容の成果について検証を行うことにより、昔話の再話絵本の比べ読みを活用した授業方法の効果を提示した。

上記のアンケートの結果と考察が示すように、事前アンケートでは、図1のとおり「昔話に興味・関心がある」と答えた学生は回答者44名中23名(52.3%)であったが、事後アンケート(図3)では、回答者42名中41名(97.6%)の学生が肯定的に回答し、昔話への関心を深めて意欲的に取り組めたことがわかる。例えば、付表に示した事後アンケートの質問⑩の自由記述においても、「昔話に興味を持つことができ、様々な昔話を読んでみたいという関心、意欲に繋がったので、今回昔話の比較をして違いがあることを学ぶことができよかったです」という記述がみられる。図4のとおり事後アンケートでは、97.7%の学生が、「児童文化財としての昔話の意義に対する理解を深めることができた」と回答し、その意義についても、付表の事後アンケート記述回答が示すとおり、伝承文化の継承、昔の文化・習慣について知識を得る、人間の生き方を学ぶ、言語の獲得、想像力や感受性を豊かにするなど様々な観点から捉えている。また、表3が示すように、事前アンケートでは昔話の「再話」の意味を半数近い学生が理解してなかったが、昔話絵本の比べ読みを通して再話の違いや特徴を捉え、子どもの発達年齢や保育のねらいに応じた読み聞かせの教材選択について考察を深めていた。また、今後保育に積極的に取り入れたいと意欲を示し、活用方法を提示していた。付表のとおり事後アンケート質問⑩の自由記述では、「昔話を選ぶ際には、様々な再話絵本を読み比べて子どもの発達に応じた言葉表現を選んでいきたい」「昔話について今まで深く考えたことはなかったけれど、選ぶ中でも中身が一緒ではないのでしっかりと自分の目で見て確認して選ぶことが大切だと思いました」「昔話について深く知ることができ、保育者として絵本を選択するときの留意点などについても学ぶことができました」などの回答がみられる。また、「小学校就学前のときには小学校との接続が必要なため集中力を養うためにもある程度の長さの絵本が良いのだと思いました」というように、幼小接続の観点からの意見もあった。さらに、昔話を継承する意義について、「昔話は古くから引き継がれているもので、今途切れることはとても悲しく、今後も受け継いで行くことが重要だと感じたので、今回の学びを今後の実習や就職後に活かしていきたいと思います。そして昔話の魅力や昔の考え方を子どもたちに伝えていき、子どもたちの優しい気持ち、人を思いやる気持ち、道徳心を育てていけるようにしたいと思いました」という記述もみられた。

以上から、昔話絵本の読み比べを通して「伝統的な言語文化」に親しみ、児童文化財としての昔話の特徴と意義について理解を深め、幼児期の発達段階と言葉の育ちに応じた教材について考察を深めるという本授業の目的は、概ね達成されたといえる。

その一方で、本授業の成果を考察する過程で見出した課題および改善点についても述べたい。図2の事前アンケートの結果が示すように、昔話を「口承、語り」を通して聴いた学生は1割にも満たず、各地域の方言や昔話特有の語りや言い回しに親しむ機会が少ないのが現状である。従来昔話特有の語り口調を継承しているとして定評のある瀬田版を「難しい」と捉え、読み聞かせに適切な再話絵本として選択するグループがなかった理由には、伝承文芸として耳で味わう昔話独特の語りの魅力を捉えきれず、現代と異なる言葉や方言が理解し難く、親しみを感じにくいということが一因であるとみられる。

今後の課題及び改善点としては、多くの様々な昔話の再話絵本に親しみ、子どもの心を惹く場面を選び、グループで協働的に役割分担し、音読の仕方を工夫して発表し合う活動を取り入れるなど、音声に出して耳で味わうことで昔話独特のリズミカルな言葉の楽しさや言い回しの面白さを体験し、口承文芸としての昔話の特質や伝承する意義に対する理解をより一層深めることが重要であると考えます。

さらに、幼小接続期の教材として昔話をどのように保育に取り入れるかについて、2年次に受講する「こどもと言葉Ⅱ(指導法)」において、多くの昔話の再話を比べ読み、紙芝居作りなどの様々な児童文化財の活用方法について考察を深め、保育実践力を高めるための授業を行うにはどのような工夫をするべきかについて追究したい。そして、機会があれば、領域「言葉」と小学校国語科の幼小接続期における昔話の教材研究についての新たな授業実践報告を提示したいと考えている。

## 6. まとめ

現在では、祖父母から孫へ、親から子へと受け継がれてきた昔話の伝承は行われなくなってきており、子どもたちが昔話と接する場は、家庭よりも保育・教育の現場に移り変わりつつある。子どもたちが昔話に接する機会となるという点で、保育の現場は、一つの「伝承」の場として大切な役割を果たすといえる。前述のように、小学校では伝統的な言語文化に関する指導が重視され、第1学年及び第2学年では「昔話や神話・伝承」などの読み聞かせを聞くなどして、伝統的な言語文化に親しむことが指導内容になっている。幼小接続期に昔話の読み聞かせを積極的に取り入れ、伝統的な言語文化に触れる楽しさを実感し、興味や関心をもって話を楽しむことを経験させることが重要である。

昔話には、独特の語り口調や言葉など現代とは違う表現や文化などが表現されている。伝承する保育者は、子どもにとって身近ではない昔話に出てくる言葉や文化を知識として身に付けておく必要がある。そのうえで、子どもの未知の世界への好奇心や想像力を刺激し、子どもの疑問などに丁寧に対応しながら読み聞かせを実践することが大切である。幼児に読み聞かせる際には、昔話なら何でもよいという安易な扱いは避けたい。教材を用いる際には、子どもの発達段階に応じて、どのような目的でどのような内容の昔話を読み聞かせるのかという視点で、比べ読みを通して再話絵本を吟味することが効果的であると考えます。

## 注釈

注1) 藤本朝巳は『昔話と昔話絵本の世界』において、「昔話絵本」とは、「昔話をテキストとイラストレーションで示す一つの表現形式であり、また耳と目で味わう一つの鑑賞媒体」と定義している。また、地域の文化・風土など耳で聞いた語りだけでは伝わりにくい事柄を「視覚化するという手段」で「昔話の語られた時間や空間を理解・共有することができる」とし、「ことばでは十分理解できない子どもに、イラストレーションをつけることによって、昔話を理解しやすくすること」に、「昔話絵本の存在価値がある」と述べている<sup>24)</sup>。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省：『小学校学習指導要領 平成29年3月告示』，東洋館出版，p.29 (2018)
- 2) 厚生労働省：『保育所保育指針 平成29年3月告示』，フレーベル館，p.20 (2017)
- 3) 2) と同書，p.27
- 4) 2) と同書，p.28
- 5) 文部科学省：『幼稚園教育要領 平成29年3月告示』，フレーベル館，p.7 (2017)
- 6) 藤本朝巳：『昔話と昔話絵本の世界』，エディタースクール出版部，pp.12-17 (2000)
- 7) 馬見塚昭久，小倉直子編著：『保育内容「言葉」指導法』，ミネルヴァ書房，p.112 (2018)
- 8) 瀬田貞二再話；赤羽末吉画：『かさじぞう(こどものとも傑作集4)』，福音館書店 (1966)
- 9) 岩崎京子文；新井五郎絵：『かさじぞう(むかしむかし絵本3)』，ポプラ社 (1967)

- 10) 稲田浩二, 稲田和子編:『日本昔話ハンドブック』, 三省堂, pp. 98-99 (2010)
- 11) 山田吉郎:「教材としての『かさじぞう』: 幼児教育・小学校教育の視点から」, 『鶴見大学紀要.第3部, 保育・歯科衛生編』, 54, p.87 (2017)
- 12) 相場和子・岡本富郎・中田カヨ子編:『新訂お話とその魅力: 作品と話し方のポイント』, 萌文書林, pp.174-175 (2002)
- 13) 秋田喜代美, 砂上史子編:『子どもの姿からはじめる領域・言葉』, みらい, p.54 (2020)
- 14) 文部科学省:『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 国語編』, 東洋館出版社, p. 53 (2018)
- 15) 1) と同書, p. 31
- 16) 教育出版株式会社編集局編:『ひろがることば小学国語二下 教師用指導書解説』, 教育出版, p.132 (2020)
- 17) 原田留美:「岩崎京子「かさこじぞう」と瀬田貞二「かさじぞう」: テキスト比較表からわかる文学作品としての特徴の違いについて」, 『新潟青陵学会誌』, 4 (3), p.126 (2012)
- 18) 安藤操:「かさこじぞう」(岩崎京子) 再話の視点: その都会的発想の限界」, 『国語教科書批判: 「かさこじぞう」から「故郷」まで』, 三一書房, pp.17-45 (1980)
- 19) 山本将士:「笠地蔵の教材価値に関する比較研究: 原話と再話に関する比較研究試論」, 『人間文化研究 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科)』, 10, pp.162-165 (2008)
- 20) 岩田英作:「岩崎京子『かさこじぞう』のたくらみ」, 『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』, 49, p.16 (2011)
- 21) 17) と同稿, p.127
- 22) 船津啓治:『比べ読みの可能性とその方法』, 溪水社, p.100 (2010)
- 23) 川上弘宜:『「比べ読み・重ね読み」で「一人読み」』, 明治図書出版, p.27 (2009)
- 24) 6) と同書, pp.18-19

付表 2022年度「こどもと言葉Ⅰ」振り返りアンケート記述回答（一部抜粋）

<b>③昔話の読み聞かせには、どのような意義があると思いますか。自分の考えを書いてください。</b>	
I. 伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の日本の暮らしや風景を口で伝えていくことで、言葉と絵を組み合わせるだけでイメージすると同時に興味も出てきて、そのまま日本の伝承にも繋がるし、今と昔の違いを知るだけで物語に新鮮さを感じるから。</li> <li>むかしの人たちが現代に伝えたいことを絵本にして記していると思うので、読むことによって伝承されていくと思った。</li> <li>日本の国として、また地域としての文化や言葉使いなどの継承。</li> <li>昔から受け継がれている児童文化財に簡単に触れることができる、その後次の世代に受け継いでいく担い手になるための初歩的一步を踏み出すことができるなどがあると思う。</li> </ul>
II. 昔の文化や習慣を知る、非日常的な世界に遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や地域の文化の違いだけでなく、昔の文化や暮らしに触れそれを想像する。</li> <li>昔のことを知って理解したり、絵本を通して昔から受け継がれている言葉や環境に興味を持つ。</li> <li>過去を知る事ができる、現実とは少し違うファンタジーの世界に触れることができる。</li> </ul>
III. 教訓、道徳や人間の生き方を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「かさこじぞう」では暮らしは貧しいが、登場人物の心はあたたかく感じられました。なので昔話で昔から受け継がれている考え方や道徳を学ぶことができ、あたたかい心も持つ人物になることができるのではないかと思います。</li> <li>悪い行いや良い行いをすると必ず自分に返ってくるという物語が多いため、道徳的な観点で成長していけるのではないかと考えました。</li> <li>人への思いやりなどが見られるので、良心や道徳心を育てていると考えた。</li> </ul>
IV. 言語の獲得、想像力や感受性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔ながらの言葉使い「どっとはらい」などや方言が使われていたり、昔の道具などがあり、現代にはないものと触れ合うことで豊かな感性、想像力を育てる。</li> <li>普段の生活の中では出会うことの出来ない背景や物、生活、登場人物に触れ、それらに対して想像する楽しみ、わくわくした高揚感等を体験することができる意義のあるものである。登場人物の心情を想像し一喜一憂したり、登場人物と一緒に考えて、思考力を育むこともできる。</li> <li>現代とは違った昔の物語を読むことで、子どもの想像力が豊かになると思う。</li> <li>昔話からその内容と自分の経験と結び付けたり、想像を巡らせたりする。</li> <li>登場人物の心情を読み取り人の気持ちを想像する。</li> <li>想像力が育まれたり昔話ならではの言葉表現が楽しめると感じた。</li> <li>昔の文化や方言、言葉に触れ言葉を使うことを楽しんだり、昔話ならではの思いやりなどを感じ取ってほしい。</li> </ul>
<b>⑤昔話絵本の比較を通して学んだことについて書いてください。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>再話する人によって文章量や登場人物の会話、背景の描写の細かさの違いがあり、その違いから登場人物に抱く印象が少し違うものになることが分かった。</li> <li>同じ昔話の内容でも少し違いがあったり、気持ちの表現の仕方や話し方が全然違うことがわかりました。比較する前までは、絵本の色や色など見やすさで選んでいたけど、絵本の絵だけではなく内容もしっかり理解しないといけないと学びました。</li> <li>再話者の違いによってそれぞれ良い点があり、1つの物語でも様々な再話者の絵本を読んで、その絵本の特徴を読み取り、対象年齢や育まれる姿などを踏まえた上で保育に活用していくことでより良い教材になること。</li> <li>昔話の絵本の比較では、同じ絵本だとしても言葉の使い回しや、内容が違うことがわかりました。その中でも、内容の詳しさが全く違っており、驚きました。また、情景の表現の仕方が全く違う部分もあることがわかりました。</li> <li>昔話は決まった作者が存在しないため、再話者の存在が重要だということ、一冊だけでなく何冊も比較し、子どもに合った絵本を選ぶ必要があるということ。</li> <li>今回の昔話絵本の比較を通して、同じ物語の絵本でも、言葉遣い、表現の違いによって想像できる情景や、絵本が伝えたいメッセージが異なることを学びました。また子どもの年齢や発達や保育者のねらいに合わせて、絵本を選ぶことが重要だと学びました。</li> <li>子どもが絵本に興味をもちやすくするためにリズムカルな言葉がでてくる昔話を選ぶようにする。</li> <li>同じ題名でも、今回学んだように内容や言葉遣い、伝えたいことがまったく違う場合があるので、保育者が絵本の絵や題名だけで同じだと思い込まず、事前にしっかり読んで選択することが大事だと思いました。</li> </ul>	
<b>⑥昔話の読み聞かせをする時に絵本選びで留意することは何ですか。</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達に合っているか、言葉の言い回しについて保育者自身が理解できるか。</li> <li>子どもの発達に合わせた昔話・季節や行事を考慮し、子どもが好きな繰り返し言葉が使われているものを選ぶこと。</li> <li>同じタイトルだからどれも同じだろうと思って表紙の絵だけで選ぶのではなく、しっかりと中身を見たうえで子どもに適していると感じた方を選ぶこと。</li> <li>本の表紙だけを見て判断するのではなく、きちんと本の内容も確認して本を選ぶようにすること。</li> <li>表紙だけで判断するのではなく、中身をしっかりと見て、内容や言葉遣い、本の長さなどを見てから決めること。</li> <li>同じ物語でも書く人によって、内容が全然違うので自分の考えるねらいにあった絵本を選ぶことが大切だと考えた。</li> <li>同じ題名でも、今回学んだように内容や言葉遣い、伝えたいことがまったく違う場合があるので、保育者が絵本の絵や題名だけで同じだと思い込まず、事前にしっかり読んで選択することが大事だと思いました。</li> </ul>	

**⑧昔話についてこれからもっと学びたいことは何ですか。**

- ・クラスの人達に「自分の小さい頃に聞いた昔話」集計を取ってみたいと思いました。年齢が違ったり、育つ地域・場所・環境が違うのでその違いを共有してみるのも楽しいのかなと思いました。
- ・昔話がどの地方で生まれたかなど歴史、話の内容、種類について。
- ・昔の言葉や表現を知って子どもたちに説明できるような知識をつけていきたいです。
- ・いろんな昔話を読んで昔の文化や生活習慣などを学びたい。
- ・他の作品は再話によって何がどう良くなっているのか昔ながらの表現をどのように表現しているのかを学びたい。
- ・もっと多くの昔話を読み比べて、年齢にあった言葉表現を選べるように学びたい。
- ・近年の昔話は表現が和らぎ、大きくストーリーが変わっているものもあるらしいので、同じタイトルの絵本を作られた年代別で比較したい。
- ・多くの昔話があるので本とアニメとの比較をしていきたい。
- ・他の昔話での再話者による表現の違いについて学習していきたい。
- ・昔言葉がわからないから昔言葉について学んだらもっと理解できるのではと思った。
- ・様々な再話者の絵本を読み、特徴を理解して、教材研究をして保育の中で実践できるように自分の力にしていきたい。その中で、昔特有の言葉遣いには特に注目して、意味などを知っていき、できるだけ子どもが触れられように自分の中に吸収出来るようにしたい。
- ・同じ話でも比較して、読み比べをして発達に合う絵本を選ぶことについてこれからも学びたい。

**⑨今後、実習や保育の中でどのように昔話を取り入れたいですか。**

- ・発達に合わせた昔話の再話者を選んで絵本での読み聞かせをしたり、いくつもの再話者の絵本を読んで自分の中でねらいに合わせて教材研究をしっかりとした上で、素話やパペット、ペープサートなどで話していくなどして取り入れたい。
- ・保育の中で時間をかけて取り組みたいテーマになりうると考えました。かさじぞうであれば、子どもたちが興味をひかれるような、雪の遊び（紙吹雪）、じぞうを描く、つくってみる、劇をしてみるなどです。
- ・昔話のペープサートなどを作って子どもの昔話に対する興味を深めて昔話のことを楽しめるように工夫したい。
- ・紙芝居や人形劇・発表会やごっこ遊びなど、リズムカルな言葉やその言葉を使う楽しさを感じてほしい。
- ・保育者として子どもたちが昔話を楽しめるように話したいなと思いました。
- ・沢山の物語を知ってほしいと思うので、すこしマイナーな昔話の絵本を取り入れたい、言葉についても触れてほしいので、昔の言葉で書いてある絵本を選ぶなどして取り入れていきたい。
- ・昔話に親しむ月間を作り、毎週昔話の読み聞かせを行い、子どもの昔話に対する興味を引き出せるようにしていきたい。
- ・昔の遊びを行う際の繋がりとして祖父母と関わる時期などのイベント前。
- ・昔遊びでコマなどをするとき導入で絵本を読む。
- ・子どもに伝えたい考え方などがあるときに昔話を積極的に選んで読み聞かせで取り入れたい。
- ・人を思いやる大切さを子どもたち自身が読み取れるようになるためにも、昔話を取り入れた保育を行いたい。

**⑩疑問や感想(自由記述)**

- ・授業を通して昔話に興味を持つことができ、様々な昔話を読んでみたいという関心、意欲に繋がったので、今回昔話の比較をして違いがあることを学ぶことができよかったですと思いました。昔話は古くから引き継がれているもので、今途切れることはとても悲しく、今後も受け継いで行くことが重要だと感じたので、今回の学びを今後の実習や就職後に活かしていきたいと思います。そして昔話の魅力や昔の考え方を子どもたちに伝えていき、子どもたちの優しい気持ち、人を思いやる気持ち、道徳心を育てていけるようにしたいと思いました。
- ・昔話を選ぶ際には、様々な再話絵本を読み比べて子どもの発達に応じた言葉表現を選んでいきたいと思います。
- ・昔話について今まで深く考えたことはなかったけれど、選ぶ中でも中身が一緒ではないのでしっかりと自分の目で見て確認して選ぶことが大切だと思いました。また読み聞かせする対象年齢の発達段階をしっかりと把握することが大切だと思いました。
- ・昔話について深く知ることができ、保育者として絵本を選択するときの留意点などについても学ぶことができました。
- ・小学校就学前のときには小学校との接続が必要なため集中力を養うためにもある程度の長さの絵本が良いのだと思いました。
- ・グループごとの考えや思いを聞いたことで、自分では考えなかったことをたくさん知ることができました
- ・班ごとで色々な視点があったのでそれぞれの班の発表を聞くのがとても新鮮でなるほどなと思うことがたくさんありました。
- ・グループ発表のまとめは、まとめきり大変達成感を感じることが出来ました。
- ・グループ学習で学んでいくのでわからないことや、つまづいたことが出てきても、グループの人が助けてくれたりするので一人で考えるのではなくみんなの知識や考えでまとめていくのが楽しかったです。